

Feature Articles

2022年の
注目トレンド

NFT / メタバース / 動画配信 / 宇宙ビジネス

- 10 〈NFT〉 テレビ朝日&テレビ朝日メディアプレックス
12 〈メタバース〉 HIKKY
14 〈動画配信〉 野村総合研究所(NRI)
16 〈宇宙ビジネス〉 Space BD

Exclusive interview

- 6 映画『Ribbon』劇場公開記念
製作統括×エグゼクティブ・プロデューサーが『Ribbon』を語る
福田 淳氏((株)Speedy 代表取締役社長)
×
宮川朋之氏(日本映画放送(株) 執行役員 編成制作局 局長)

Special Topic & Reports

- 18 アクセルスペース
36 世界の衛星ビジネス業界における2021年10大ニュース 取材・文/神谷直亮
54 スペースシャワーTV & Waseda Music Records(早稲田大学)

Convention Report

- 38 「東京宇宙ビジネス展示会2021」 取材・文/神谷直亮

2022
2
FEBRUARY

セミナー情報

- 3 サテマガBi設立20周年企画 無料オンラインセミナー

Series Articles and Columns

- 20 放送ビジネスの政治経済学 58 文/音 好宏
22 メディア・リサーチ「テレビ局トップの覚悟」文/鈴木祐司
24 メディアまんだらげ 234 「『ケーブル年鑑2022』を読む④」取材・文/猪股英紀
29 考えるメディア 237 文/福田 淳
30 地産飛翔〜ケーブルビジネス関連動向
(気になるトピック / 機器チェック!)
40 アジア衛星TV最新情報 237 文/長瀬博之
42 日本で受信可能なアジア衛星TV一覧
48 Official Information
衛星放送協会 / スカパー-JSAT / 日本ケーブルテレビ連盟 / 日本CATV技術協会 / 日本ケーブルラボ / CRI
53 Information 新作映画紹介 & Convention
56 ワハハ本舗 喰始のエンターテインメントのツボとボツ 151 文/喰 始
57 NEWS FILE 2022年1月6日~1月27日
62 料理研究家 吉原ひろこのラクールcooking「@いう間の“館かけハンバーグ”」レシピ/吉原ひろこ



DATA

- 34 CS-CHANNEL RANKING
63 定期購読のおすすめ
64 購読オーダーシート
65 Back Number

〈読者の皆さまへ〉

「DATAページ」(各プラットフォーム別加入状況および業界動向データ、CS/BSバイテレビ接触率ランキングなどの掲載を今号も見送ることとなりました。上記各種データは、誌面には掲載していませんが、2022年2月10日に弊社HP (<http://www.satemaga.co.jp/>)にPDFにてアップしております。お手数ですが、こちらから閲覧くださいますようお願い申し上げます。

2022年2月10日

サテマガ・ビー・アイ(株) 月刊「B-maga」発行人 一瀬悦子/編集長 池和田一里



有料放送&VODビジネスがわかる! 新社会人にもオススメの一冊

メディア融合時代到来!
【コンテンツ至上主義】視聴者が「選ぶ」メディアは?

多チャンネル放送研究所 + 音 好宏(上智大学教授&多チャンネル放送研究所所長) 編著

急速に台頭してきた有料動画配信サービス(OTT)の利用実態や、その潜在的ニーズ等を明らかにするとともに、多チャンネル放送に与える影響、多チャンネル放送とOTTとの関係等を分析。メディア融合時代の多チャンネル放送の今と未来を読み解きます。

定価:2,200円(税別)

- 編著:多チャンネル放送研究所 + 音 好宏所長
- 編集・発行:サテマガBi
- 発行日:2016年12月25日
- ページ数:182ページ
- サイズ:A5判



※購入は大手書店、Amazon、サテマガBi HPにて

CLOSE SHOT

WOWOW開局30周年記念プロジェクト
「アクターズ・ショート・フィルム2」で玉城ティナが初監督に挑戦

(株)WOWOW(東京・港区、田中晃社長)は1月13日の定例会見で、WOWOW開局30周年記念プロジェクト「アクターズ・ショート・フィルム」の第2弾について紹介した。同プロジェクトは、クリエイターが集まる場としてWOWOWが機能することを目指し、2021年にスタートした。今までも多くの俳優が名監督になってきたが、「俳優が



WOWOW開局30周年記念「アクターズ・ショート・フィルム2」

カメラを撮る側に回ったらどんな化学反応が起こるのか」、その可能性に着目した企画となっており、第2弾では、青柳翔、玉城ティナ、千葉雄大、永山瑛太、前田敦子の5名が自身初の監督に挑んだ。

会見に出席した玉城ティナは、監督業で得たもの、作品に込めた思いなどを晴れやかな表情で語った。今回手がけた作品「物語」では、自身の体験などをもとに脚本も担当した。玉城は、「今回監督として立たせてもらったことは、役者としても役に立つと思う。短編を撮ることができたのでこれから先、もしかしたら長編にも挑戦できるのでは

ないか。自分の中で新しい道が広がっていくのを感じている」と笑顔を見せた。そして、「コロナ禍におけるコミュニケーションの大切さを改めて考えて書いた脚本なので、今の時代の雰囲気や感覚が散りばめられた作品になっていると思う。人が生きる上での居場所というもの大切さを描いているつもりなので、ぜひ何を考えたかを聞かせてほしい」と話した。

会見に出席した玉城ティナ

